

会議録

- 1 附属機関の名称
犬山市総合計画審議会
- 2 開催日時
令和4年5月17日（火） 午後7時00分から午後8時30分まで
- 3 開催場所
犬山市役所 2階 202、204、205 会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 岡村 千里、ピアンキ アンソニー、奥村 哲司、松浦 英幸、丹羽 良仁、増田 修治、田村 奈々、森好 佐和子、鈴木 誠、本巢 芽美、水内 智英、間中 麻耶、目黒 優衣
 - (2) 執行機関 鈴木経営部長、井出企画広報課長、小枝企画広報課長補佐、倉知企画広報課主査、菊井企画広報課主査補、若山企画広報課主査補
- 5 議題
 - ・第5次犬山市総合計画等の検証、進捗管理について
 - ・第6次犬山市総合計画策定の進捗状況について（報告）
- 6 傍聴人の数
0人
- 7 内容
 - (1) 開会

事務局（井出）	定刻前ではございますが、ただいまより「令和4年度第1回犬山市総合計画審議会」を始めさせていただきます。 本日、お忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。 進行は、井出が務めさせていただきます。 初めに、鈴木会長よりご挨拶いただきたいと思います。鈴木会長、お願いします。
---------	---

(2) 挨拶

鈴木会長	皆さん、こんばんは。 本日は、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。 今回は令和4年度第1回犬山市総合計画審議会という場になりましたが、これまで議論してきた6次総の協議から少し離れまして、その6次総の検討をしていく前提になるこれまでの5次総、あるいはまち・ひと・しごと等の検証、これからまた説明があると思いますけれども、そういう作業を今日はやっていくこととなります。これも、次の計画を作る前提条件を改めて確認をしていくとても大切な場になりますので、今日はそういう場に皆さんお集まりいただきました。
------	---

	<p>またこの後、二手に分かれて今日は意見交換をしていただきますので、最後までどうぞよろしくお願ひいたします。</p>
事務局（井出）	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日の会議につきましては、お手元の次第に従って進めさせていただきます、おおむね1時間半程度、8時30分をめでに終了させていただきます。</p> <p>本日は、事前に、鈴木温委員と中山委員より欠席、それから田村委員より遅れて参加というご連絡をいただいております。</p> <p>委員総数15名のうち、現在12名出席となっています。過半数が出席されていますので、本会は成立いたしましたことを報告いたします。</p> <p>ご案内となりますが、本審議会は公開とさせていただきます。</p> <p>会議録作成のため録音させていただきますので、ご了承ください。また、作成した会議録は、後日公開させていただきます。</p> <p>会議録につきましては、事務局で作成したものに、会長が指名する2名以上の委員にご確認いただいた上、署名いただくことになっております。事前に打合せをいたしまして、本日の会議録への署名者は、ピアンキ委員と本巢委員にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>ここで、事前にお配りしました資料の確認をさせていただきます。</p> <p>まず、別紙「はじめにお読みください」、次第、委員名簿、調査票1「第5次犬山市総合計画改訂版目標指標一覧表」、調査票2「総合計画改訂版重点施策実施状況一覧表」、調査票3「総合戦略関連事業進捗状況一覧表」、調査票4-1「地方創生関係交付金の効果検証（地方創生推進交付金）」、これと、ホチキスで同じくとじられています調査票4-2「地方創生関係交付金の効果検証（地方創生拠点整備交付金）」。また、本日お手元に、第5次犬山市総合計画改訂版、それから第2期いいね！いぬやま総合戦略、それから本日のグループ割り振り名簿をお配りしております。</p> <p>不足等ございませんか。</p>

（3）議事

事務局（井出）	<p>では、ここから議事に入ります。</p> <p>議事の進行につきましては、鈴木会長よろしくお願ひします。</p>
鈴木会長	<p>議事に入ってまいりたいと思います。</p> <p>最初の議題ですけれども、第5次の犬山市総合計画等の検証、進捗管理について委員の皆さんに活発な議論をしていただくため、この審議会をこれから2つのグループに分けていきたいと思っています。</p> <p>この間もやってきましたので皆さんもイメージがおわかりになると思いますけれども、まずは皆さんが集まったこの状態で事務局説明とそれについての質疑をここで共通でやっておきまして、その後でグループに分かれて、今日はお二人の副会長さんがファシリテーターをやってくださるので、皆さんの意見をどんどん出していただく仕事を今日やっていただけますので、そのような場に移っていきたくと思っています。よろしいでしょうか。</p> <p>8時半には終了するというようにしていきたいと思っています。ですから、集中審議という形でいきますので、よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、事務局からまず説明をここでしていただきたいと思っています。よろしくお願ひします。</p>

事務局（倉知）	<p>事務局の企画広報課の倉知です。よろしくお願いします。座って説明させていただきます。</p> <p>ご説明の前に、1点改めてお伝えさせてください。</p> <p>本日の審議会は、現行の第5次総合計画等の検証、進捗管理がメインとなりまして、第6次総合計画策定に関する内容につきましては次回以降の審議会で皆様にご議論いただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、事務局から、資料に基づいて説明させていただきます。</p> <p>第5次犬山市総合計画等の検証、進捗管理については、現在の総合計画と第2期いいね！いぬやま総合戦略、そして総合戦略を受けて実施している地方創生関係交付金事業について、委員の皆様からご意見、ご見解をいただきたいと考えております。いただいたご意見、ご見解につきましては、必要に応じて担当課にフィードバックし、今後の施策や事業実施の参考とさせていただく予定です。</p> <p>また、今回の資料を通して犬山市の現状や課題についてお考えを深めていただきまして、次回以降の会議での新しい総合計画の策定においてご意見をいただけたらと考えております。</p> <p>まずは、調査票1について。</p> <p>こちらは、現在の総合計画に記載された各指標の達成状況と市の取組などを記載したものです。</p> <p>事前にお配りしました「はじめにお読みください」の5ページをご覧ください。</p> <p>表にあります①達成指標。こちら最下段にありますが、令和3年度は令和2年度に比べると目安値を達成している指標が7件増えて、66件になりましたが、全体の割合から見ると35.11%にとどまっています。</p> <p>続いて、表の②にありますが、コロナの影響を受けて下がってしまった指標が全体の2割程度あります。その内容としては、観光やイベントに関するもの、公共施設利用者数や地域活動などに関するものです。これらの中には、コロナがなければ目安値を達成できた指標も幾つかあると考えられます。</p> <p>具体的な指標については、調査票の1枚目をご覧ください。一番右の欄に▲マークがついているものが、コロナの影響で下がった指標になります。逆に、コロナの影響で上がった指標については、黒い丸マークをつけております。</p> <p>続いて、先ほどの表の③になりますけれども、目安値には届かなかったものの、目安値プラスマイナス10%以内に達している指標が30件、全体の15%程度あります。</p> <p>この①、②、③を合わせると、あくまで参考値ですが、全体の72%となります。決して褒められたことではありませんが、もともとの目標値が高めに設定されているものがあることを考えると、一定の成果が出ているものと考えております。</p> <p>調査票1全体を通して、担当者としては、分野を問わず新たな担い手が不足しているという点が課題であると感じております。</p> <p>続きまして、調査票2です。「はじめにお読みください」の6ページをご覧ください。</p> <p>こちらは、現在の総合計画の3つの重点施策に関する施策の実施状況を記載しています。調査票2に記載されている事業は、今後も継続的に実施していく性質の事業が多いものですから、ほぼ実施中となっています。1件のみ、計画どおり整備が終わったということで、完了となっております。</p> <p>次に、調査票3にあります、第2期いいね！いぬやま総合戦略についてです。</p>
---------	---

	<p>こちらは2019年度末に策定をしまして、計画期間は2020年度から2024年度末までとなっています。調査票3では、総合戦略で新たにチャレンジするとして取組について、昨年度に取り組んだこと及び計画期間までに取り組むことについて記載しています。</p> <p>今度は、「はじめにお読みください」の7ページをご覧ください。</p> <p>計画期間が始まって2年が経過しました。準備中のものが昨年度の15事業から5事業になりまして、全体的には実施中のものが大半を占めておりますが、既に完了しているものが8件となっています。実施中の一部については、既に新たな取組を始めているものの、今後も継続していく事業であるため完了とはならず、実施中に分類されています。</p> <p>次に、調査票4-1、4-2にあります地方創生関係交付金事業です。</p> <p>4-1は主にソフト事業を対象とした地方創生推進交付金、4-2は主にハード整備を対象とした地方創生拠点整備交付金となっています。</p> <p>一部につきましては国からの交付期間は既に完了しておりますが、交付金を受けるに当たって策定した地域再生計画の計画期間が残っているため、こちらに掲載しております。新型コロナウイルスの影響を受けて、多くの事業がその規模を縮小または実施方法の変更をしています。</p> <p>「はじめにお読みください」の8ページ、9ページをご覧ください。</p> <p>事業評価としましては、KPIの達成状況によって機械的に行っておりますが、拠点整備交付金の、「伝統文化を活用した観光コンテンツ造成のための施設整備計画」。これは調査票4-2になりますが、これについては、KPIの①、②の指標について、この事業を開始したときの数値よりも実績値が悪化していますが、これは新型コロナウイルス感染症の影響を多大に受けております。施設の休館の期間があったりイベントの開催ができなかったりしたことが要因となります。</p> <p>一方で、令和2年度から、SNSを活用してからくり文化の積極的な情報発信に努めておりまして、そのおかげもあったのか、開館中は地元業者や市民団体等が開発したグッズの販売が大変好評で、来館者については特に若者の方が目立ってきたことなど、いい成果も出ていることから、地方創生に効果がなかったとまでは言えないということで、地方創生に効果があったと判断しております。</p> <p>事業により大小はあるものの、いずれの事業も地方創生に効果があるとともに、地方版総合戦略の実現に有効であったと考えております。</p> <p>説明は以上となります。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今ざっと説明いただきましたが、「はじめにお読みください」のところは皆さんお読みいただけたと思いますので、ここにひとつ結論が出ているわけです。この結論に至る各論の部分の個別の事業内容については、今見ていただいた資料1から資料4、そういったところを見ていただければというところでした。</p> <p>ただ、それぞれ受け止め方は様々ありますので、その様々な受け止め方を今日のご議論いただくことがとても重要なテーマになっています。</p> <p>今の説明内容について何か、確認したいことやお聞きになりたいことがありましたら遠慮なく出していただきたいのですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか、皆さん。</p>
各委員	(質問等なし)
鈴木会長	ありがとうございました。

	<p>それでは、これから2つのグループに分かれてご意見をいただいて、その後、ここへ戻ってきて終了という形にします。</p> <p>今回は、皆さんのグループでの意見交換を重視したいということから、特段全体でどういう意見があったというまとめのような形は取りません。むしろ、それぞれ意見を言いやすい小さなグループを作って、そこで今日皆さんがお持ちいただいたアイデア、あるいは感想や疑問をどんどん出し合っていて、これを事務局に記録しておいていただくことが大事になってきます。それをまた分析して、第6次の計画に生かしていきたいという気持ちもあるものですから、今日は2つのグループでとにかく意見を出し合うことに重点を置いていただけたらと思います。</p> <p>副会長さんが今日は司会進行役をしていただけますので、皆様、どうか大いにご発言ください。よろしくお願いします。</p> <p>それでは、一応ここにお集まりいただいて最後、事務局から次回に向けての説明等もいただかなければいけないので、8時15分に皆さんここに集まるということで、時間を見ながら、今日の作業に入らせていただけたらと思います。</p> <p>それでは、早速お願いしたいと思います。</p>
<p>【Aグループ】</p> <p>事務局（小枝）</p>	<p>田村委員は少し遅れてくるということなので、先に私の方から説明させていただきたいと思います。</p> <p>調査票1、2、3、4-1及び4-2の内容から、現在の総合計画、総合戦略、地方創生関係交付金について、委員の皆様それぞれのお立場や普段の生活の中で感じていることについて、ご意見、ご見解を述べていただければと考えております。委員の皆様同士での意見交換をメインにさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>このグループワークについても録音をしています。</p> <p>それでは、ここからの進行は副会長にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>松浦副会長</p>	<p>皆さん、改めまして、こんばんは。</p> <p>グループワークの進行、本当にいつも緊張します。やっぱりいい時間にしないといけないですから、黙って聞いているだけではだめですから、いつも緊張しますが、今まで皆さんに助けていただいて、まあまあよかったなと思っています。また今日もそういった気持ちですので、各段のご協力をいただきたいなと思っています。よろしくお願いいたします。</p> <p>今さら私が説明することはないのですが、この資料をもらったときに、すごいたくさんですね。それと、これは検証ですね。今までの進捗状況など。ですから、ある意味、なぜこういうものができたのか、成り立ちや意味をよく理解しないとなかなか評価ってできないものだと思っていましたから、今回非常に頭を使うなと思っています。その辺は、意見を皆さんに出していただいて、それをどのように加工して反映していくのかということはまた事務局が考えてくれると思いますので、本当に自由に進めていけたらと思っています。</p> <p>どんなポイントでも構いません。自分が気になるところ、そういったものをピックアップしてご議論いただければと思っておりますが、どなたかご発言いただける方はいますか。</p> <p>ビアンキ委員どうでしょうか。やっぱりお詳しいでしょうし、思いは強いでし</p>

	ようし。
ビアンキ委員	<p>副会長がおっしゃったとおり、すごい資料がたくさんあるから、感じていることをまとめるのは少し難しいですね。</p> <p>このタイトルを見ると、これが大ざっぱなキャッチフレーズみたいですので、どうやってまとめるのか、もう少し考えさせていただきたいと思います。</p> <p>例えば、「はじめにお読みください」の5ページ、この宣言の中で4番。とりあえずこれだけ見ると、4番でまちのにぎわいだけれど、やっぱり今回は、全体的にコロナの影響で少し評価しにくいのですけれども、最近少し落ち着いたからまた城下町がすごい人が多い。もう少し市民のための楽しいにぎわいできればいいなど。抽象的なことですが、それは感じています。</p>
松浦副会長	<p>私も城下町の中に住んでいますが、本当に春休みぐらいからすごく人が戻ってきましたね。名鉄電車を使う人が多いから、電車が来ると人が大勢行くので、すぐわかります。</p> <p>おっしゃることがよくわかって、そういうみえた方と市民との交流。交流と言うと大げさ過ぎるけれども、何かそういったものが生まれるといいなと思います。</p>
ビアンキ委員	<p>そういう角度からいうと、観光客と市民も参加したいようなイベントがあれば。城下町を市民はそんなにうろうろしない。観光客ばかりだけれども、イベントなど何かあったら、コンサートがあると誰でも見に行きたいですね。市民でも観光客でも。城下町だけではなく、いつも我々国際交流をやるときに、文化会館でコンサートをやる。老朽化してきたのだけれど、素晴らしい施設です。もう少しそちらで市民が楽しめる劇など。隣の扶桑でよくいろいろやっているみたいです。せっかくそういう素晴らしいものがあるから、そういう施設を活用すればいいかなと思っております。</p>
間中委員	<p>コロナで人がすごく少なくなったときに、こういうときこそ住民に、例えば人数制限してでもお城を開放するなど。</p> <p>小学生のアンケート結果でも、結構お城を誇りに思っている子が多い。うちは子どもが犬山北小なのですが、毎日学校からお城を眺めています。こういうことって本当はとても貴重ですごく贅沢なことだなと。小学校からお城が見えるなんてアピールポイントだと思うのですが、見て、中には入れない。ですので、コロナのときこそ何か、住民向けにもう少しいろいろ開放を。人数制限するなど、無料でも低額でもやっていただけたらよかったなど。</p> <p>この計画を見ていて、コロナですごく大変そうだなと思ったので、全体的に、達成度は関係ないかもしれないですけど、住民と観光を結びつけるものがあまりないなと思っています。もちろん、外部から来た人に何かアピールすることはすごく大事だと思うのですが、でも、やっぱり住民が観光地ということを楽しんでいけば、きっと外部からも、その様子は絶対に伝わると思います。</p> <p>この2か月ぐらい、ママを中心にいろいろリサーチして、犬山に住みたい、住んで楽しいと思うことないかなということを聞いたりしたのですが、犬山城は挙がってくるのに、案外あまり行ったことがない。ですので、例えば夏休み中に、午前中空いている時間だけでも、パスポートみたいな、スタンプラリーでもやってくれたらすごい楽しい。たまに行けたり。</p> <p>城下町に住んでいるお年寄りの話を聞くと、昔はお城が公園だったみたいな話をしていて、小学校が終わったらお城に遊びに行つたと。すごくうらやましいな</p>

	<p>と思いました。子どもたちがそんな感じで入場できたら、それって住民にとってもいいし、外にもアピールポイントになると思うので、そういう住民向けに観光を楽しめるようなものをもう少し。コロナの時期こそ、ぱっと転換してやれたら住民にとってはうれしい。</p> <p>知らないだけで、やっていらっしゃるかもしれないのですけれど。とは思いました。全体的に見ても、コロナでできなかったことがすごく多いなと思います。そういうときにこそ。例えば3人、一家族限定で犬山城に入れる、犬山市民限定でみたいにしてくれたら。</p>
森好委員	<p>移動制限がかかっているときこそという。県をまたぐことをはばかれた時期など。</p> <p>子どもが地元のお城だったり木曾川だったり、公園でもいいと思いますけれど、そういうところを知ること、宣言10番の愛着を持てるというところにつながっていく。</p> <p>だって、自分のまちのことを知らない、何の愛着もわからない、PRもできない。結局、遠くへ出たとしても、愛着があればきつと戻ってきますよね。外から見ると犬山というものも多分必要です。私も結婚で一時外へ出たことがあるので、出たことによって、犬山に戻りたいと思いました。ですので、そういう間中委員のアイデアもわかりました。</p>
松浦副会長	<p>聞いていて、ピアンキ委員の言ったことと、間中委員の言ったことはつながっていますよね。それぞれ観光と市民というのが、2つ別の話のようだけれど、そこをつなげていくという話だったかなと。私も全くそう思います。</p> <p>そうすると、先ほども言いましたが、市民として、観光客がすごく多いときってやっぱり近づかない、人が多過ぎてわざわざ。本当に黒山の人だかり状態だから近づかない。</p> <p>それから、大変失礼な言い方ですけども、観光客向けの値段設定はとても高いから、市民としてはなかなか食べにくい。だけれど、そうやって敬遠していても生まれないから、そこをうまくくつつけていくというお話に近かったと思います。</p> <p>次に、奥村さんの出番かなと思ったのは、やっぱり地元のものや特産的なものはいいものがきつとあるのですけれども、それをどうやって、みえた人に接点として渡していくか、伝えていくか。今までも奥村さんはよくJAの活動を報告していただいていたけれど、そういった観点でも今のお話と全部つながっていくのではないのかなと思いました。</p>
奥村委員	<p>先日も述べましたが、城下町でみかんジュースを、地元のものを使って売っていらっしゃる。そういう動きもあります。松浦副会長がおっしゃったとおり、そういうことも大事な視点だと思います。二宮みかんのジュースをカフェ経営の松本さんがやっていらっしゃる。こういう動きもありますので、こういうことにいかに。</p> <p>例えば私の農協の立場だと応援ができるかということになると思いますし、市民としても、こういう動きがあったら楽しい。いいものがある、地元の物を売っている。</p> <p>そういうこともあると思うのですが、私は、松浦副会長、ピアンキ委員、皆さんがおっしゃった中で、市民の観光といいますか、市民が自分の住んでいるまちのいろんな文化、そういうものに対してよく知って、それを誇りに思って、外部</p>

	<p>からいらっしゃった方に説明できるシステムが実は犬山市にあります。</p> <p>皆さんご存じのとおり、以前、全市博物館構想がありまして、これ大きなことでしょと。ここの精神は、地域に住んでいらっしゃる方々が、自分たちの住んでいるところの歴史や文化に愛着を持って自らが説明できる。そういうことによってまた勉強する、説明しなければいけないということですから。それによってより深くなっていくのではないかな。</p> <p>私はやっぱり皆さんがその地域により愛着を持って、地元の文化や歴史に誇りを持って、そしていらっしゃった観光客の方と相対することができることはいいことではないかと思います。</p> <p>上手にやっているのが山梨県南アルプス市。そこでは、まさにこれを実践している。犬山市は構想を持っていますので結構違う、そんなことを思います。</p>
間中委員	<p>子育て世代がそれを感じるのがすごく大事なかなと。</p> <p>やっぱり子育てしていると利便性みたいなのがすごく大事です。どこに住むかのベースに、第1ワードに入ってくるのが「利便性」。どのママに聞いてもそれは当たり前で、さらにその上でという感覚はすごくあります。そこを突破できるものがないかなと。</p> <p>利便性は、犬山はなかなか難しい面が、今まで1年間いろいろ見たり、予算の面やユネスコ、商業地の誘致などもいろいろ話している中、なかなか難しい。そんな早急には難しいということはわかってきたのですが、やっぱり何か代わる、利便性を上回る、それでも住みたいと思うものを考えないといけな。そういう意味で、子どもたちが例えば城下町で、お城をすごい走り回っていたら、観光に来た人も、ここはこんなに子どもに開放していて、自分が結婚したら住みたいなという候補にも挙がってくるかなと。私も一緒にお城へ毎日来たいみたいな。</p> <p>何か特化していくしかないのではないかと思います。すごく好きなものを追いかけてもらう。もちろん利便性も絶対ですけど、そこはできる限りやる。できる限りやるというのは、民間が通りやすかったりするなど。どのママに聞いても、買い物に行く場所がないという、そこが一番難しいところ。でも、本当はあるのかなと思います。野菜なども、市場がありますし、朝市があったり、何か楽しんで買い物ができるような、イオンには負けないようなそういう感覚を、超えるものを何かやっていく必要が、都市構造計画のイメージプラスアルファというのはあるのかなというところです。</p>
奥村委員	<p>「はじめにお読みください」の5ページにありますけれども、宣言に対して実際に達成したのが右側の一番最後のところですよね。違いますか。</p>
事務局（小枝）	<p>達成したのは①のところですよ。</p>
奥村委員	<p>コロナのことも考えて、目安数値等を見て、トータル判断が一番右。</p>
事務局（小枝）	<p>おっしゃるとおりです。</p>
奥村委員	<p>トータル判断で見ますと、達成した、上からいきますと9番の、「豊かな心と生きる力をはぐくむ教育を実現します」は95.65%ですから、ほぼ100%に近いですよ。2番目は、「誰もが愛着を持てるまちをつくります」は88.89%ですか。次に、「誰もが安心して暮らせるまちをつくります」が83.33%ですね。</p> <p>逆に、達成割合が低いと思われるものが、2番の、「自主財源の確保に向けた行政改革を進めます」。これと、2番目に、「快適な暮らしを支える都市基盤を整えます」。これはハードのことだと思います。</p> <p>3番目が、4番の「まちににぎわいと活力をもたらす産業を盛り上げます」と、</p>

	このあたりが、先ほど間中委員がおっしゃったような、買い物に行くところがあまりないよなど、そういうのはこういうところでもよく出ているかなという気がします。その辺でしょうね。
松浦副会長	<p>点数の低いものは、確かにハード系ですよ、基盤整備や産業などね。ですから、そのとおりだな。点数が高いものは、心の中、どうにでも取りようがある、思いが強ければ100%になる。少し失礼な言い方ですけど。</p> <p>ですから、ある意味これは非常に正直な統計の仕方だと思っていますので、そこはとっても安心感というか信頼感があります。それをどうするかというふうに取ればいいのかと思っています。</p> <p>あとは、先ほど奥村委員がおっしゃった中で、少しそれてしまいますけれど、二宮みかんがありましたね。</p> <p>私が子どもの頃ですから50年ぐらい前、小学校から中学校に入る頃、結構楽田ってみかんが盛んでした。私の同級生も、楽田でみかん山を持っていて、遊びに行ったときにみかん狩りをした覚えがあります。</p> <p>それが最近、ここ20年ぐらい聞かないなと思っていました。確かに、みかんといえば傾斜地で栽培されるから大変だとは思いますが、その同級生も跡をやっています。そういった中で、でもやっぱり生きていたわけですよ。それは続いていたわけですよ。だから、そういったことを逆に教えてもらったり、知ることがとても大事だと思いました。</p> <p>知らないことを知るということは、よそのこと、外国や遠い地域のことを知ると同時に、過去のことを知るということもとても大事なことです。未来のために過去のことも知っておく。過去のことを知るということは、観光客の人がみえたときにいろんな説明や、誇らしくしゃべれたりということになりますから。全くよそのことと同時に、時間的に昔のことや過去のことも知っていく。それが先ほどの全市博物館構想。確か20年ぐらい前、大分前にやったのがやっぱり生きていた。先ほどのみかんと一緒に生きているよって、そんなふう新鮮に思い起こしました。</p>
ビアンキ委員	だから、これを見ても懐かしい。我々が石田さんのときにこれはやったので。このようなものをせっかく作ったから、今どうなっているのかなと思う。せっかく作ったから。
間中委員	見たことないです。手に取って見たことない。
ビアンキ委員	<p>今、デジタルになったからホームページに載せたり、子どもに、学校で使えばいいと思います。一度ハイビジョンの、いいビデオを作りました。お城を遠くから撮って、ドローンがなかったらすごいお金を使いました。あのビデオ、1年ぐらい使いました。</p> <p>なぜそういう気分になったのか。映像制作を勉強したことがあります。映像があるからいろいろ使えるかなと思って聞いて、データはどこにあるか誰も知らなかった。だから、せっかく作ったものをもう少し上手に整理して。そうしないと、毎回毎回同じものを繰り返して作っているから。この冊子も、もう一回作ったほうがいいと思います。</p>
奥村委員	<p>これはもともと、フランスにありますエコツーリズムがもとになっていて、それを日本風に、山形県の朝日町ですかね、エコミュージアム構想というものを作りまして、そういうものの改良版みたいなものです。</p> <p>私は、本当は犬山市に博物館を作ってほしいです。近世の博物館やこの時代の</p>

	<p>博物館ではなくて、やっぱりトータルの、地球誕生までは言いませんけれど、旧石器時代から現在に至るまで。犬山市にも遺跡や遺物がありますよね。そういうものをトータルで展示するものもいいとは思いますが、まあまあお金もかかるだろうなど。</p> <p>我々がこういうことを、「実は余坂にも旧石器の遺物が出ていますよ」、「ここで出ましたよ」ということを話してもいいですよ。お城の時代もいいと思いますけれど、犬山で近代につながって現代にこうなっていくよみたいな話でもいいですよ。そうなるといいなと思います。言うのは簡単ですけど、難しいです。実際にやろうとすれば南アルプス市が参考になると思います。</p>
間中委員	<p>調査票1の10/12の352などの学校教育ですね。私も子どもがいるので、学校、教育ってどうなのかなと思って気になるので。10ページ。</p>
松浦副会長	<p>子ども未来課や学校教育課のあたりですね。</p>
間中委員	<p>そうです。「義務教育の充実」というところ。</p> <p>保護者はすごく満足しているけれども、子どもたちの指標は達成してなくて、そこがすごく不思議というか、少し危機感もあります。</p> <p>子どもたちが、学校って世界なので、犬山市そのものの世界を多分彼は感じていて。犬山にはすごくいいところがあるのに、学校と切り離されて考えてしまっているような気もします。それこそ子どもたちも楽しめるような都市の博物館計画というか。すごくうらやましかった話が、先ほど言った、昔、公園みたいに、学校から帰ったら犬山城で遊んだ話ってすごくいいなと思っています。ですので、もしそういうところがもう少し満足できていたら、ここを補えたりするのかなと。</p> <p>今、マスクもまだまだ外せないですし、いろいろな影響が子どもにあって、ここもチャンスではないかなと逆に思ったりもします。そこで犬山がいいと言ったら、子どもたちが将来就職で東京に行っても、その記憶があれば子どもは戻ってきてくれたりするかもしれない。</p> <p>今はSNSもありますし、住民が宣伝するみたいなことが一番効果的ではないかなと思います。どうしても外の世界、外の人に来てもらうことがいいなと思います。博物館構想と教育を結び付けられたら、市民が観光を、コロナで▲だったものが良い方向につなげていけるのではないかなと。</p>
松浦副会長	<p>ビアンキ委員や私たちはリアルタイムで、20年前行政に関わっていたから知っていましたね。</p> <p>今、ちらっと見たのですが、この中に出ていたものの5割以上は明らかに今のほうが進んでいます、整備されていっていますよ。古いほこりをかぶったものではなくて、例えば城下町の無電柱化整備もこの後にされましたし、ダムのところの公園が公有地化されたことなど、その他いろいろやっぱりありますから。新鮮ですね。</p>
奥村委員	<p>そのとおりなのですが、一番進んでないものはそういった整備ではなくて、市民がトレーラーになっていろんな来る方に説明できるように自分たちの知識を得る。そういうものがやっぱり手つかず。そういうことが大事だと思います。これは難しいですけどね。</p>
間中委員	<p>楽しむということがポイントかなと思います。学ぶというよりは、楽しくないと。ぱっと見楽しいに絶対影響される。わくわくする、楽しめるような、犬山城だと上ってあの急なのを楽しみたいなところ。</p>
奥村委員	<p>そういう意味では、「ナイスで犬山」。ボランティアで、事前申込しておけば説</p>

	<p>明ができる。そういうものも一つの形だと思います。そういった方々からさらに市民の方も話せるようになったら、これは最高だと思います。一つそういう形で表れていると思います。</p> <p>市民といっても、市民というよりも、先んじてやっていらっしゃるボランティアみたいな方がいらっしゃるものですから、そういう方がリーダーになりつつそういう方々を育成していけば、こういう構想に合致してくるのではないかなと思います。</p>
松浦副会長	<p>市民活動や、講座でよくありますよね。ボランティアの講座や手話の講座などいろんなものがありますけれど、そういったようなものが浸透していくと、みんなが知識を得て、教育や文化や、「まち＝みんなが学び合い」、とはまでは言わないけれど、あるときは自分が得手な部分で先生にもなれるし、あるときには生徒にもなれる。そういった意味では、市民活動が活発になっていくと人を育てていくことになる。</p> <p>市民活動はあまり活発じゃなかったようなデータがありましたけれど、何をもって市民活動という概念が非常に難しいから、統計的には難しいですけど、そんなふうにも思います。そうやって違うものと違うものの柱をくっつけていくことが総力になっていくのだろうなと思います。</p>
森好委員	<p>市民活動も、現状としてはやっぱり高齢化。どこの活動もそうですけれど、市民活動に限らず、町内会も高齢化というところで、皆さん口をそろえて「後継者がいないよ」って、「自分ができなくなったらどうしよう」ということを日々おっしゃっています。</p> <p>先ほどの小さい子どものうちから犬山城を知る、青塚を知る、古い町並みを知る、入鹿池の歴史を知るということを通じて、例えば学校から、親に話して、「じゃあみんなで行ってみようか」というキャッチボールというのか、流れができることによって土地に愛着が生まれる。そうしたら、ここで入鹿池を守っている人たちがいるということもまた知っていきますよね。それが全部つながっていくことで、そういう活動をしていたら、「私も何かできることがないだろうか」という気づきのきっかけにはなると思います。「はい、あなた来て手伝って。」と言ったところで、気持ちがない状態では多分続かないし、一回こっきりになってしまうこともあるのかなということもあって。出会うきっかけがないのかなと思います。</p> <p>市民活動をやっている人って結構、現状にしても少ないですよ。少数派なのかなと思ったりするので、まだ気づいていない人にかに気づいてもらえるようなきっかけが子どものうちからできるといいのかなと。また教育にかぶっていきますけれど。</p>
松浦副会長	<p>楽しい、興味がある、好奇心、そういったキーワードを。市民活動と言うと、崇高な理念で、「私は無理」って。そうではなくて何か、もう少しずつと入ってこられるような。</p> <p>今思っていたことが、歴史など、入鹿池の話がありました。入鹿切れがあって150年ぐらいたっている。そういうことを知ることによって、防災につながっていく。防災って今、すごく行政にとって大きな重要な柱で、なおかつ、最終的には自分で自分を守るという考え方になってきていますよね。日本の国自体が最終的には。</p> <p>だから、そのためにこういう過去のことを知っているということは強みになります。結局、何かに興味を持って、その中でイメージを膨らませることによって</p>

	自分に役立てられるかという。一聞いた中で二、三ぐらいの想像力があつたら助かるかもしれない。
森好委員	<p>普段から考えておくこと、知っておくこと。</p> <p>入鹿池のこと、去年だったかな、羽黒のお話ボランティアさんが一緒になって、入鹿がきれいだという絵本を制作されて、犬山市の助成金を使ってそれが小中学校に寄贈されているので、子どもたちは何かのタイミングで多分見ているかなとは思いますが。それを知ること防災の話にもなっていくし、「お母さん知ってる。」っておうちへ持って帰って、またそれも回っていくのかなと。</p>
松浦副会長	<p>時代と言うとベタなのですが、タイムリーなものって世の中に存在して。例えば50周年、100周年もありますよね。また、非常に不幸な話ですけど、ウクライナのようなことが起こるとやっぱりみんな真剣に考えますよね、我が事として。ですから、危機的なことはずっと変わっていないけれども、やっぱり人間ってそういうタイミングではと思って自分のこととして考えるから、タイムリーな話題として出していく。</p> <p>犬山市でも、50周年記念事業、市制60年などやりますよね、周年。ですから、やっぱり人に伝える方法としてそういったタイミングも利用してということも。よく歌手の人は、芸能生活何十周年記念コンサートをやりますよね。そういうタイミング。出し方も工夫のしようがあると思いました。</p>
森好委員	もうすぐ切りのいい年ですよ。70周年でしたっけ。
事務局（小枝）	令和6年に70周年。
松浦副会長	昭和29年に市になった。
間中委員	<p>防災の話もですけど、防災に絡めて、5ページの171、地域における子育て支援というところ、これもコロナによってバツですけど、具体的に2点ですよ、コロナをもう経験してしまったので、次来たらどうするかということを考えてみえると思います。今度はバツじゃだめだと思いますよね。防災面と緊急事態の件も相まって、そこを提示していただけるように。</p> <p>本当に大変でした。出かけられなくて。子どもたちってマスクを外してしまったり。それを冷たい目で見たりされると、それだけで孤立感が高まる。どこへも行けないし、家の中にいなければいけない。世界中が敵ではないかみたいなママたちがいっぱいいたと思います。本当にしんどい思いをしている人の声もいっぱい聞きました。みんなで助け合って、声をかけ合って公園で遊んだり。それをすごく真剣に市は考えているということアピールするだけで違うかなと。</p> <p>行政が見てくれているなどというのはあるので、そのときに、先ほど言った、犬山城が何人か制限してでも開放してくれたらよかったのになと、そういうのを感じたと思っています。</p> <p>入館者が増えて、ニーズがやっぱり高まっている感じではあると思います。これをどう生かしていくかが大事なことで、周りのものが使えていない。使うまでいけないですよ、子育てしていると。大変過ぎて目の前のことをこなすだけでいっぱいいっぱいになってしまっ。誰かに助けを求めることはきびしいみたいな心理もすごくあると思います。何かマッチングさせるようなもの、本当にどう支えていくかみたいところは、コロナ禍だったからこそ、もう少し助け合いができればよかったのかなと。</p> <p>あとは、3ページの42の3の男女共同参画の推進というのは、我々みたいに審議会に結構出させていただけようになってきているのかなと思います。ぜひこ</p>

	<p>れは「○」にさせていただきたいなと思います。</p> <p>これはコロナの影響はない。東京から来る人は東京と比較して犬山を考えているので、東京は働きやすい、犬山は働きにくいというイメージがあるなどということはおそらく感じます。私は実家が犬山市内にあるので助けてはもらえますが、その辺のサポート、プラス全市博物館構想が必要だと思えます。</p>
松浦副会長	<p>東京は働きやすい。子育てはしやすいのですか。</p> <p>確かに女性は働けるし、職種はたくさんあると思うけれど、子育ては。お金さえ出せば何でもそろうのが都会だとは思いますが。</p>
間中委員	<p>そこは、やっぱり自然があったほうが良いという人もいないですか。そこにアプローチしていくというのは。でも、そうすると仕事を失うという。それが難しかったりするのかなというところもあるのかなとは思っています。</p>
松浦副会長	<p>田村さん、途中からで大変かもしれないけれど、せっかくだからご意見お願いします。</p>
田村委員	<p>まず、調査票1の③のところ、目標指標の縦にある①、②などが、黄色いバーの①、②、③と被っていて、ぱっと見わかりづらいなと思いました。これは、「はじめにお読みください」5ページの「結果概要」にある③の目標について①、②があるのですが、これは前のところで説明があるのでわかるのですが、ぱっと見、黄色いバーのところの①、②、③が被っているの、区別できるとよりわかりやすいかなと。細かいことすみません。</p> <p>先ほど教育の話をしていたので、10ページの一番最後のほう、163からの老朽校舎の改修ということですが、これは体育館、プールなどが②なので、最初が多分校舎ということだと思えますが、それが大体計画どおり進めたと書いてある。この前見たら、西小は大丈夫かなって。中身が大丈夫、耐震など大丈夫ならいいですけど、見た目が結構、自分が通っていたときとどうしても比べてしまうので大分。白いから余計、汚れてしまったなということも思っていて、見た目も気になるなというところがありました。耐震など、基本的な子どもたちの安全に関することができているなら、それが達成できているということだと思えるので、これは大丈夫なのですが、見た目ももう少しきれいにしてもらえたらいいと。</p> <p>学校は中身第一で、外見もきれいにしてもらったら見た目もよくなるのではないかなと。これからの犬山は、子どもたちの教育の場が大事だと思うので、学校が使いやすい、学校がきれいだと、より通うのも楽しくなる。</p> <p>ネットを見て、今言われていることは、女子トイレに生理用品を常に置いておくなどそういう細かいこと。最近制服が、男女問わずいろいろ選択肢が増えたということもありましたが、やっぱり子どもたちがより生活、過ごしやすくするという視点、私の今の年齢と自分の立場だったら、そういうことを積極的に考えていきたいなと思っています。</p> <p>全体的にまとめて言うと、やっぱりホームページのアクセス数が増えたこと。それはコロナのワクチンの状況を見る。あと、高齢者のインフルエンザのワクチンが増えたということは、多分コロナの影響だなど。コロナのことですごいアクセス数が増えたということはいろいろあって。やっぱりみんな自分事だと考えると、今まで見なかったことも見るようになると思ったので、これからはそれを子育てだったり防災だったり。</p> <p>とんでもない事故が起きてから防災について考え始めた、アクセス数が増えたとなっても寂しいので、コロナで何が増えたかということを考えて、もしものこ</p>

	とがある前にもう少しそういうものにアクセス、自ら市民が参加していけるように、そういう心がけを増やして、自分も含めて増やしていけたらいいかなと、この表を見ていて思ったことです。
松浦副会長	ありがとうございます。
奥村委員	<p>先ほど少し触れて話をやめましたけれども、全般的なことを少し申し上げたいです。</p> <p>「はじめにお読みください」の5ページ、達成割合を総合的に判断して一番低くなっているものが、2番目の「自主財源の確保に向けた行革を進めます」。これが5割ということで一番低くなっている。なぜかなと思いつつこれを見させていただく中で少し疑問に思ったものがありまして、もしおわかりになればお答えいただきたいと思いますが、例えば26番の達成できなかった原因の中に、「臨時財政対策債が約5億円増額」となって、そういうものを、いわゆる借金が増えてというようなふう思ったのですが、臨対債って交付税算入されませんか。</p>
事務局（鈴木）	基本的には交付税算入されます。
奥村委員	<p>交付税算入ということは、つまり国から交付税に一定の借金をしているんですね。今ここと5億円ですけども、一定のものを国からまた交付金が来ますよね。それを臨対債が5億円超えたから、これを健全性のものさしにしてしまっているのかなという。多少はいいと思いますけれど、どうかなという疑問を持ちました。それが1つの例。</p> <p>例えば、先ほどファミサポの話が出ましたよね。それが5ページの77番、この達成ができなかった原因の中に、援助会員が高齢化によってと書いてあります。右側を見ると、その対策でどうなのかなという、全然違う次元の、「ICTを・・・」と書いてあるから、減った原因と今後の対策が少しマッチングしないと感じました。</p> <p>それから、6ページの86番に生活保護のことが書いてありますけれども、これを載せると、私の認識では、生活保護は一定の要件に該当する方は措置しなければいけない立場であって、それを指標にして、それが多から何かという指標ではないと思います。</p> <p>前にも、3回目のときか何かに申し上げたつもりでおりますけれども、むしろ生活保護受給者の方がいかに就労していったかという、就労率のような指標にすべきではないか。これを見ますと、生活保護の人が増えることが指標でいいのかなという感覚を持ちました。</p> <p>そのほかにも、指標ではこんなものがありました。現在の公共施設量から削減する割合が多いと評価するみたいな指標になっているのですが、例えば、福祉会館を解体したから、公共施設が少なくなったからより効率的みたいなふうで、それもどうなのかなと。ファシリティマネジメントと公共福祉の増進を図ることの兼ね合いをどう評価するかというのは非常にむずかしいかなと。</p> <p>一方で、先ほどの学校ではないですけども、見栄えもよく中身もよくしてほしいだろうし。そういう指標で、今回は第5次ですので、実際計画を作ったものの、こういう指標で去年と比較してどうだということでしょうかから、一気に基準は変えられないと思いますけれども、6次に向けてはそういうものを見直していくべきかと。前にも申し上げましたが、もう一回申し上げさせていただきます。</p>
松浦副会長	私も、福祉会館のところは同感です。あと最近、いかに無駄な補助金をカットしたかということが。無駄か無駄ではないかということは、もらっている人の意

	<p>見を聞かないといけないと思いますので、そういうものをまた。 もう時間になりましたけれど、最後に少しだけしゃべります。 やっぱりコロナのこと、これを作ったときにはコロナ入っていませんから、6次もまだ入り切れていないかなと思いますけれど、やっぱりコロナがすごく大きいですね。コロナによって増えたものもあった、減ったものも当然あります。人が動けないから当然、リモートなどをやるようになったから、それはいいことですけれども。うちにも高齢の、80代の母がいますけれど、そういう人たちがこぼれていってしまうので、そこをどうやって上げられるのかなと。 それは何度も言いましたけれど、引っ張り出してスマホの使い方を教えてあげればということはあるけれど、私自分が60過ぎて感じることは、年を取るとすごく気が短くなってきます。「もういい」となってしまう。ですから、年を取るとそうなる生き物だということで、子どもが気に入らないと何で、と。そういった人間の本質を理解して、操るとは言いませんけれど、そういう理解をして進めていくことも大事なのかなと思います。最近すごく怒りっぽくなってきたから、すごく思います。 少し話がそれましたけれど、いずれにしても、コロナというものは避けて通れないから、ウイルスという。今年度の間に6次に入っていけないといけないのかなと。</p>
奥村委員	<p>副会長がおっしゃるように、当初はコロナのことはなかった。そのことを考えると、十分到達しているものもあるし、コロナの影響で逆にまたよくなったというか見方が変わったものもある。ただし、コロナとは関係なく、やっぱり粛々と整えていかなければならないものはやっていただきたいということが多分評価に現れている。 ただ、私は一部、評価に、指標に馴染まないと思うものがあるという、そういう印象を持ちました。</p>
松浦副会長	ありがとうございます。
【Bグループ】	
事務局（倉知）	<p>ここからはグループに分かれて意見交換となります。 ここでは、会長おっしゃられたように8時15分をめぐりに、調査票1、2、3、4-1及び4-2の内容から、現在の総合計画、総合戦略、地方創生関係交付金について、委員の皆様それぞれのお立場や普段の生活の中で感じていることについて、ご意見、ご見解を述べていただければと考えております。委員の皆様同士での意見交換をメインにさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。 このグループワークについても録音しております。 それでは、水内副会長に司会進行をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
水内副会長	<p>よろしくお願ひします。 ざっくばらんにということですので、できるだけ活発な議論になるようにしたいなと思っております。よろしくお願ひします。 たくさん資料があつて、目を通していただいたと思いますけれども、重複している部分など、いろいろあつたと思いますので、特にこれというふうに進めずに、広く、資料を見ていただいた中で気になった箇所をご指摘いただけたらいいかな</p>

	<p>と思っています。</p> <p>全体の評価として、先ほど説明があったかと思いますが、評価できる部分があれば、達成できなかった、課題が残る部分もあると思います。課題の部分については、今後の総合計画を審議していく上でも、この点については重点的にもう少し施策を考えるべきではないかという展開につながっていくかだと思いますので、もちろん可能性も含めて課題の部分があれば、どこに重点を置くべきかということもご意見いただければいいかなと思っています。</p> <p>細かいところで、KPIの指標であったり、その達成度合いがどうかということも詳細に書かれてはいると思いますけれども、あまり細かい数字の議論に入り込むというよりは、全体の、ポイントをどこに置くべきかというところでご意見いただければと思っています。</p> <p>いかがでしょうかと言っても、なかなか難しいと思います。感想というところや、ご自身の考えていることで大丈夫かと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>最初だけ順にという流れでよろしいですか。こちらからぐるっと回る形。本巢委員から順番ということで、いかがでしょうか。</p>
本巢委員	<p>資料1の▲マークのところはどういうものだったのかなというのを拝見してまして、中止や、図書館などは閉館になったのでという理由があったことが少し気になりました。</p>
水内副会長	<p>コロナ禍関係のところですね。</p>
本巢委員	<p>そうですね。</p> <p>開館日が少ないので、もちろん少ないだろうとは思いますが、むしろ家にいる時間が多いということで、本の貸出しも増えるのかなと思いましたが、そうではないということだったので。</p> <p>だとすると、コロナが収まったときに開館日が増えたとしても、開館日が増えたからこの目標達成につながるということにすぎなくなってしまうので、図書館の利用のしやすさといったところはもう少し工夫があったほうが、コロナが収まったときによくなるのかなという感じがしました。</p>
水内副会長	<p>コロナ禍の影響ってやっぱりかなり受けていると思いますけれど、これを拝見して、どうしてもしょうがないなという部分はあると思います。これ、私が意見を言ってもいいかわからないですけど。</p> <p>今後も多分、恐らくいろんな予期しないことが。コロナ禍って本当に予期しなかった、今度の戦争なんかもそうですけれども、これだけ全部変わると思っていなかったし、また、少し世界情勢も怪しいなということは誰も予測できないので、次の総合計画の期間の中でもいろんな社会の変化が恐らくあるだろうというときに、どうやってそれを柔軟に計画に。行政の計画は最初に目標設定しなければいけないので難しいとは思いますが、柔軟にできるだけ対応できるように、どうにかできないのかなということは感想としては思いました。</p> <p>コロナ禍であっても、例えば先ほど図書館の事例、すごくいいなと思いますけれど、閉館して人数は減ったけれど、貸出数が、家の時間が増えるので増えていくということにどうやって、ピンチをチャンスにではないですが、よくしていけるのかという発想があるということもいい学びになっているのではないかなと思いました。</p>
本巢委員	<p>次年度以降の取組で、非来館型のサービスを拡充していくってあって、これってデジタル図書などするということですか。</p>

事務局（井出）	<p>副会長と本巢委員がおっしゃるとおりで、この目標指標を立てた時点では、コロナのようなことを全く想定していない社会で、実際起こってから、最初の頃は完全に休館。貸出しもしない状態だったのですが、徐々にウィズコロナというか、コロナ禍でも何らか活動ができるような形というふうに、だんだん我々も学びつつやってきました。</p> <p>それは図書館だけではなく、我々の仕事の仕方もそうで、この機会に我々もオンライン会議のようなものであったり、あるいは今まで出張しなければいけなかったことがそうではなくてもできるようになったこと、会議の準備の仕方などもどんどん変わったり、あるいはコミュニケーションの仕方も、新しいツールを使えるようになったというところがありました。図書館の例で言われましたけれども、ほかのところでもそういう形で、まさにコロナの影響でいい数字が出なかったけれども、その中でそれを事例にして学びつつ、新しいやり方をまさに構築している途中かなと思っています。</p> <p>そういう意味で、デジタル図書というものも図書館担当者としては随分やりたいというところがあって、いろいろ予算など、そういう場でも要求が上がってきております。その辺は、やっぱり市全体の中で、お金をそこにつけられるかどうかという議論の中で決まっていくことですが、コロナを契機に、図書館の利用者をどうやって増やすか、今まで来なかった人に対しても本を読んでもらう、本を読んでもらってどうなるかということを考えるいい契機になっているかなと思います。</p>
水内副会長	<p>今ちょうど棚卸というか、そういう時期なのかなと思います。コロナで変わったことの中で、このまま発展的に変え続けるべきことと、やはり弊害があったら少し戻しましょうというふうに仕分けていくタイミングなので、6次の総合計画にそういうことが、これからはどんどん伸ばしていきましょうというものは反映させられるかもしれない。</p>
増田委員	<p>この資料を見ていると、コロナというものが出てきたので、それがやはり気になるところではあります。実際感覚として、私たちの団体でもそうですし、私も実家は和菓子屋なので、観光業がなくなると非常に打撃を受けているのは事実です。</p> <p>実際私も、祭りで手古をやったり、石上げ祭やったり、いろいろやっていますが、コロナの状況で、今度も石上げ祭の会議がありますけれど、2年間でできていないということで、事業の継続が非常に、祭り自体の伝統行事も非常に難しくなっている部分があります。犬山祭も手古が、この2年でもうやらなくていいという雰囲気になって、やめてしまった人が結構増えています。要は人材不足が急速に進んでおまして、祭り自体の継続という部分が。</p> <p>犬山市って、祭りや伝統行事が結構主軸な部分がイメージとしてはありますので、その事業継続というところは、犬山城に関しては特に世界遺産の部分もありますので、何かうまいこと方法を考えてやっていかないといけないなということと、小さなお祭りはこのままいくとなくなってしまう可能性があるんで、そこをどう守っていくかということが非常に重要なのかなと思います。</p>
水内副会長	<p>非常に共感するといいますか。犬山祭は恐らくなくなってしまうと思いますが、小さな地域の祭りこそ地域コミュニティを維持していくためにはやはり重要で、文化を守ろうという枠があったとしても、そこになかなか目が行かないですよ。小さな祭りで子どもたちがそういうふう関係に触れて地域コミュニティが</p>

	<p>できあがると、すべからく犬山祭のような世界遺産にもつながっていくって、その関係があまり意識されてこなかったのかもしれないですけども、確かにその指摘はありますし、人材不足にどう対応するのかということはあると思いますよ。</p>
増田委員	<p>お祭りに参加することが楽しいということを知っている人たちが、結局年齢が上がってしまって、みんな引退して、もう「何かいいや」という雰囲気になっているので。</p> <p>人口を増やすこともそうですけれど、人口を増やす一要因として、こういう伝統行事が大事だと思うので、そこをどう守っていくか、継続していくかということと同時に考えたいなと思います。</p>
水内副会長	<p>伝統文化のあたりの施策というものは、第5次では具体的な施策が。</p>
事務局（井出）	<p>基本的には、文化財に関してはまずは保存、次にそれを活用していくという視点で、増田委員おっしゃられたように、そもそも保存という話の中で担い手が細っていった状態だったところに、今回、コロナによってさらに進んでいっているという現状は確かにあると思います。</p> <p>それは人口減少や高齢化という流れの中で進んでしまったというところがあるので、文化財としてだけの価値ではなくて、コミュニティを維持するためにそれが生きているという視点も大事だと思いますので、そういったことも次の6次総の中では考えていく必要があると思いました。</p>
水内副会長	<p>ありがとうございます。</p>
丹羽委員	<p>すみません。</p> <p>この資料をもらったときに何をやったかという、これは昨年の6月にもらっています。細かいことは、それは前の計画なので前の立案者がいろいろ考えて、市としてこれを承認してやってきた。今回、何の意図があってこれをやられるのかなということが私もよくわからなくて、私がやったことは、6月に配られた内容と今回の数字がどう変化しているかというものを全部書いて、どうなっているのかを把握すると。</p> <p>倉知さんには申し訳ないけれど、うまいこと説明しているなと私は思っていたけれど、全然できていない。「まあまあ進捗しています」という発言があったけれど、188項目あって66が評価○。全然できていない。いつまでにやるのといったら、今年いっぱいですよ。これがどうなるのかという話が全然わからなくて、これが第6次とどうつながっていくのかというのも分かっていない。</p> <p>今回、反省のつもりでやっているのかどうか分からないけれども、私は自動車業界にいる立場ですけど、こういうことは毎年やります。会社の中で方針管理ということをやっていきますけれど、それは短期と長期と両方やっていく。そうしたときにこの数字を見たら、逆にいうと愕然とすると。35.11%しかできていない。ということは、ほとんどできておりません。「ではどうしてできていないのか」というところをもう少しやらないといけないと思います。</p> <p>KPI指標は、細かく188の項目を全部つけています。つけてやるのはいいけれども、たくさん挙げ過ぎて、できもしないものやっけていてもしょうがない。それはお金もかかるだろうし、マンパワーも要るだろうし、いろいろ要ると思います。そういう中で、では6次の計画といったなら、ある程度見通せてやれる内容に絞り込むということをやらないと。複数やるのはいいけれど、結果的にできませんでしたってなるのではないかと私は個人的には感じた。大きな目で捉えるとそういうことかなと思うけれど。</p>

	<p>コロナがあったからなど、いろいろ理由はあるけれども、それはそれとして、それは事象としては特例なので。だけど、関係ないエリアというのもあるわけだから、そこはできていないとおかしい。だって、あと今年1年しかないわけですから。</p> <p>やるべき内容は、細かい1点1点やるのではなくて、どういう傾向が出ているか、何がウィークで、ストロングで、というところをちゃんとまとめ上げて、ストロングのところはいいけれど、ウィークのところはこういうことをやらなきゃいけないと。その方が、多分皆さん論議しやすいと思います。1点1点を論議となると、言葉が出ないという。やっぱり取っつきにくい。中身は市のそれぞれの課がやっているから、これでいい、悪いといったところで論議のしようがないのかなと、私は個人的には思っています。</p> <p>まず、これは今年いっぱい終わらなければいけない目標だという認識に立ったときに、あまりできていませんよねと私はすごく感じました。</p> <p>これは、例えばいいね！いぬやま総合戦略は調査票3に入っていますよね。しかも、これは重複ですよ、調査票1と。中身を見るとすごい重複があって、同じ目標値を掲げてこっちでまた報告している。どうしてこんなふうになっているのか、私もよくわからないけれど、同じ目標値を書いて評価している。まずこれがどういうお考えでやっているのかがよく分からなくて、これがあってこれがあるという。ここに出てこないものもありますよ。たくさんありますけれど、総合戦略はいつまでにやりますか。</p>
事務局（倉知）	これは令和6年ですね。
丹羽委員	<p>これはまだ進行中で、問題ないということですよ。</p> <p>こちらは多分皆さん意見が言いやすいと思います。こちらの重点施策。あとは、いいね！いぬやま総合戦略のほうから出している、住みたいまちがある、活躍したいまちがある、こっちは言いやすいと思います。書いてあることが。多分ここは一番最初に我々が討論した内容で、ここは言いやすいと思うのですが、これも令和6年だったら進行形でいいですけど、私はどちらかという、これの実施中がどれぐらい行っているのかがよくわからなくて、こっちの指標が。それがわからないねという話で、それもたくさんあるので、そこら辺もあまりよくわからないなって。</p> <p>会議室に入って一体何を今日は議論するのかなと。個人的には、辛口で申し訳ないけれど、何を議論しようとしているのかなというのがよくわからなかったというのが、実際私はこの資料を見たときに感じたのが率直な意見です。どうしたいのというのわからない。</p> <p>細かい1点1点ではなくて、こういう傾向だった、こういうものがウィークだった、そういうことは多分皆さんも意見は出ると思います。それは「こうしていこう」や、「ああしていこう」や、「こういうふうにしていきましょう」ということは意見が出やすいですけど、もう中身が枝に行っている。枝葉に行っているものだから、枝葉を論議と言われても困ったねと。関係するところだけが意見出さるだろうと私は個人的に思ったけれど、ぐっとまとめ上げるなど、ここもちゃんとこうなっているわけですよ、章ごとに。そこに個別にやっていく内容がついているので、「こういうものが全体的には弱かったよ」、「あまりできていませんね」、という発言になると、「次のときにはこんなことをやりましょう」、「こういうふうにしたほうがもっといいまちづくりできませんか」ということは言いや</p>

	<p>すいのかなと個人的には思いました。こういうことされると非常に困るよねというのが個人的な私の思いです。</p> <p>すみません、辛口発言で申し訳ないですけど。</p>
事務局（井出）	<p>ありがとうございました。そのとおりでと思います。</p> <p>総合計画と総合戦略の関係ですけれども、改めてお話しさせていただきますと、総合計画は、既に御存じのように市の最上位計画でございます。こちらについて、個々の事業ごとに目標値を定めて、それを毎年毎年できているかできていないかということをお示しして、ご意見いただくということをやっているものです。</p> <p>総合戦略については、地方創生の関係で、これは第2期ですけれども、平成28年に、人口減少と地域の活性化のために地方にもっと頑張れということで、国のほうが、計画を作ったらいろいろ支援するよという話がありました。その引っついてくるものが後にある推進交付金ですけれども、総合戦略も一から作ったものではなくて、総合計画と相互に関連する形で作ったものです。</p> <p>ですので、丹羽委員がおっしゃるように、指標が重なっているものがいっぱいあると言われたら、確かにそうです。ここの中の主に経済であったり人口であったり、そういったところに関係するところをピックアップして、なおかつ、もう少し具体的に書いたものというふうになっていますので、重なっている点は申し訳ないですが、あるという形になっております。</p> <p>計画期間が少し違って、総合戦略のほうが長くなっていますけれども、総合計画の中の人口減少と経済活性化に関する部分をより具体的に、なおかつ、国からお金を取りながら進めていく計画はこれだという理解でいただくとありがたいなと思います。</p> <p>ですので、どうして一緒にならないのといった話もありますけれども、この辺は役所都合で申し訳ないですけれども、こういう2つの計画が相互に関連していますが、動いているという状況の中で皆さんにご意見いただいてという形をお願いしているところです。</p> <p>丹羽委員おっしゃるように、個別の事業単位で議論されても、なかなかそれは本当に茶の木畑に入ってしまう話になりますので、この分野が少し弱いという話であったり、こうしたらいいというような話をいただければ、我々も、そうだなと思ったり、あるいはこれもしかして指標の立て方自体が間違っていたのではないかとこのところまでも考えていくことになると思いますので、そういった形で厳しい意見をいただければと思います。</p>
丹羽委員	<p>私が本当に知りたかったのは、これが6次に申し送りになっていくのですかって、そういう構想を立てていらっしゃるのですかということが知りたかった。</p> <p>これ、全部反省されていますよね。初めのページから全部、去年もやっています。全部1点1点、ここも全部検証しています。ずっとやってきている。たまたま今回これ出ましたけれど、去年の6月の日付を見たけれど、6月3日にもやっています。ただ、比較の対象が少し違って、令和2年か、1年前の数字でやっています。資料が配られて、「見ておいてくださいね」であのときは終わりました。今回これがまた出てきて。たまたま私は記憶していたので数字の比較、進捗状況を確認したと。あれ、行ってないと、これでいいのと。</p> <p>まずいものだから、傾向と対策ということを私はやりますけれど、何がよくて何がいけないのかとメリハリをつけるということをやらないと、次のときにでき</p>

	<p>ませんよね。</p> <p>あとは、冒頭にも言いましたけれど、量をやるのはいいけれども、KPI掲げてやれたかやれないか。やるのはいいけれども、できもしないようなものをたくさん掲げてやるということはよくない。やっぱり体制とお金の件といろいろあると思うから、それに見合ったように計画を立てないと。作りました、本は立派です。中身はどうですかといったら、そういう意味の辛口発言をしましたけれど、全然できていませんよって。そういう発言になってしまうからいいのかなと思っているだけ。</p>
水内副会長	<p>非常に重要な指摘だと思いました。どうしても総合計画というと総花というか、全てのことを網羅するという体制でいってしまうので、ものすごい量の施策になってしまうと思います。「それを本当にできますか」と言われてしまうと、恐らく、はてと思う部分があると思います。市役所の方々の人数も限られていますし、おっしゃるとおりだと思います。</p> <p>そういうことが検討できたらいいかなと思いますけれども、6次のときに数を絞るという言い方がいいのか、まとめるという言い方がいいのか、丹羽委員がおっしゃったように評価の仕方をもう少し効率的にやる、実際の進捗評価の仕方も少し意見をつけるということも考えられるでしょうし、非常に重要な指摘だったかなと思います。セクションごとにとというか。</p> <p>さらに、おっしゃっていることを聞くと、確かに施策自体が、もちろんこのいいね！いぬやまと総合計画とは被ってしまうのですが、仕組み上は被りだと思えますけれども、施策ごとにやっぱり一つの課が割り当て課としてついて、これはよく行政で言われている、縦割りだと言われていますけれども、幾つか例えば担当課が重複するということでないか、もしかすると解決になかなか成果が出せないという項目も、当然、こういう時代なのであると思います。そういうことがどこまで柔軟に総合計画でできるのかということも含めて、少し考えるいいヒントをいただいたかなと思います。それが次に生きていくと思います。</p> <p>ありがとうございます。非常に重要だと思います。</p>
事務局（井出）	<p>おっしゃった話のなかで、現在、基本計画を6次総に向けて各課と作成しているところです。今回作ったこの成果を見ながら、どうしてできなかったかということ各課に考えてもらうということも一つの意味があると思っております。次に新たに今度の6次総で設定する際にはそういったことも踏まえた形で設定すると。丹羽委員おっしゃるように、目標だけ作って、達成できなければ意味がないというところもあるので、そもそもその指標が要るのかということも含めて考え直したいなと思っております。</p> <p>非常に厳しいお話でしたけれども、考えるきっかけにはなるかなと思います。それを踏まえて、6次総はよりよい指標、完璧ではないと思っておりますけれども、よりよい指標を作っていきたいなと思います。</p>
丹羽委員	<p>会社の中でもやりますけれど、やっぱり企業の目標値があって、それぞれの役員のやる気、目標値があって、それに対して重点施策というものを考えて、クロスするところをやっていきます。部下にも言っていますけれど、大事なことは、確かに数値を達成しなければいけないということはあるけれども、やるべき内容はそのプロセス。そこへ到達するプロセスが十分に吟味されていますかということだと思います。それが十分に吟味できていて、特にいろんなリスクテイクというもの企業は取っていくわけですが、そういう中で、そういったものを見</p>

	<p>込んでも達成のめどが立っているということを考えていかないと、コロナだからコロナだからと言うけれど、確かに我々もコロナですごい影響を受けて業績もあまりよくないけれど、リスクテイクするということを読みながらやっていくということが、今の経済、条件から、それも考慮してできる目標値を立てるということをやらないとよくないかなど。</p> <p>大事なことはプロセスをちゃんと、十分吟味するということです。KPI、全部1点1点あるけれど、何をやっていくか。それがちゃんとできていないと、立てました、結果的にできませんでしたという結果しか残らない。それはよくないねと私個人は思います。それをいかに達成するか、いわゆるゴールを描けるかというところをちゃんとやらないと、結局はいろんな理由が出てきて、最後はごめんなさい、すみませんになってしまう。会社の中でもよくありますけれど、部下にも「そうではないよ」と、「それは達成手法が甘いからではないの」と言いますけれどね。</p> <p>コロナだからといって、コロナでも考えているところは業績が悪くなくて、ちゃんとそれなりに経営できているところもあるわけで、次の手段、次の手段、次の手段というのをを出してくるわけですよ、考えている経営者は。そういうことと私は一緒だと思う。それがいいから、できない理由をそこに持っていつている。</p> <p>確かにできないこともありますけれど、考えれば別の方法も考えられただろうし、次はこうやっていこうと次へつながることになっていく。そういうふうにしなないとよくないかなど。</p> <p>35.11%という低い数字になっていると言ったけれど、そういう反省があつて次へ行くのはいいけれども、そういう中でも、先ほど言いましたように目標がたくさんあり過ぎてできないのであれば、絞るべきだと思います。</p> <p>これ、配りますよね、皆さんに。</p>
事務局（井出）	6次総は、概要版を市民の方々に配ろうと思っています。本冊のほうは、図書館に置くなどという形です。もちろん委員の皆さんには配らせていただきます。
丹羽委員	そうすると問われてしまうという話です。こんな数字だと。
事務局（井出）	ホームページには載せますので、皆さん、誰でも見られる形ですから。
丹羽委員	<p>一体市は何をやっているのというふうになってしまう、こんな低い数字だったら。よくないよということを私は言いたいです。</p> <p>だったら傾向と対策をやって、どういうところがウィークだよと、弱かったのかということぐらいは把握して、「じゃあ次何行くよ」ということを決めたほうがいいやり方なのかなと私は思うけれど。</p>
水内副会長	<p>先ほどのプロセスがすごく大事ですということはすごく同感な部分で、達成しやすい目標を立てて、それをあたかもできましたというふうに言ってしまうと、それはそれでまたおかしなことになりますよね。でも、プロセスを評価する仕方ってなかなか難しいですね。プロセス評価というものは難しいと思うので、何を達成したかというよりも、どのように達成したのかということはどうやって進捗の中で見ていくのか、そこがポイントにもなりそうですね。</p> <p>最終的な成果もそうですけれども、そこから派生するまた別のサブの成果というか、予期せぬ成果。そっちのほうが実は意外と本当の成果よりも身になっている部分があったりしますから。</p> <p>そう思うと、評価自体が難しいなという気にはどうしてもなってしまう。評価がいかにということも大事ですけど、プロセスをどのようにやっていくの</p>

	<p>かということをきちんと認識することは今後も大事だろうなと思いました。</p> <p>こういう根本の議論はものすごく大事だと思います。行政の皆さん多分困られると思いますけれども。</p>
目黒委員	<p>お話を聞いていて、いろいろ思うところがあって、何から言ったらいいかわからないですけど、私も、丹羽委員がおっしゃったこと、同感だなと思いました。</p> <p>行政には行政のやり方があるかもしれないですけど、経営学みたいなものを取り入れていったらいいのではないかなど。先ほどおっしゃったストロングとウィーク、理想があって、分析して、対策というものを繰り返して、PDCAサイクルを回してやっていかれるといいなと思いました。</p> <p>あと、もう少し前に出た話だと、どこが弱いかということ議論したらいいというところで、春休み中に私、ゼミの課題で、RESASを使って犬山市の経済を少し分析しました。消費がどんどん流出しているなと思って、これまでに何回もキーワードとして循環というのが出ていましたけれど、そこがやっぱり弱いのかなと思いました。</p> <p>観光地だから、結構流入もあると思いますけれど、それ以上に流出しているなと思っています。流出が大きいのは、お買い物するところがなくて、ほかのところに市民が買い物に行っているということが大きいかなと思うので、市内でお買い物できるところを作るということは大事かと思いますが、それだけではなくて、そこで売っているものがどこから来たのか。そこで売っているものがほかのところでできたものだったら、ほかのところにお金がまた出ていってしまうことになるので、犬山の中で循環していくように、犬山で消費されるものを犬山で作るという地産地消の考え方などを取り入れて犬山の中で循環していく。買い物ができるところを作るだけではなくて、そこで消費されるものまで考えて循環させていくということが、犬山の弱いところの対策として考えていくべきところなのではと思いました。</p>
水内副会長	<p>確かに、今まで循環というキーワードがたくさん出てきたので。</p> <p>前はそういうことが言われていたかどうかはわかりませんが、いかに循環しているかみたいなことをどこかに入れるものかどうかかわからないですけど、見ていくきっかけは作りたいですね。</p> <p>それが連携してある指標を達成する、ある指標が達成されるためにはこの指標が達成されないといけないということがわかると、協働して一緒に働くことができるという環境を作るなどという仕組みを、全体のシステミックな図を描けるか。その中で、行政に実際当たられる皆さんがどれだけ意識できるかということが重要ですよ、そこは。どう回っているのかと。</p> <p>感想になりますけれど、行政の批判として、効率が悪い、無駄ではないかなど、企業的な目線で評価されることって結構多いですけど、行政にしかできないこともあると思います。それは何となくずっと思っていることでもありますけれど。</p> <p>例えば、マーケットにならないようなマイノリティの人たちにいかに手を差し伸べて平等な世界を実現するかということは、経済指標には乗っからない話です。でも、そういうことが割と抜け落ちていて、行政は民間に近づく努力を今までしてきたと思います。行政の強みをきちんと認識して生かす。行政にしかできないことをちゃんとやるということも、私は大事だと思います。</p> <p>そういう意味では、どのくらい反映できるかわからないですけど、行政がやるべきことをきちんとやる。それは民間に任せればいいというわけでもない。そ</p>

	<p>こは意識的であるべきだなというのは常々、特に評価を見ているとどうしても思ってしまう部分があります。感想ですけど。私は大事なことではないかなって感じています。</p>
岡村委員	<p>皆さんのおっしゃられること、本当にもっともだと思います。</p> <p>まず、人口の目標もどんどん今下がっていていますし、医療分野だと健診もなかなか受診率が上がらないなど、そういったことが目立つと思います。</p> <p>健康に関するいろいろな委員会の中でも、なかなかこれだというのが打ち出せなくて、人によっては、健診を受けない人にはペナルティでも科したほうがいいぐらいの意見を出されたこともありますけれど、なかなかそれも難しいなど。</p> <p>それから、少し細かい部分になりますけれども、41番で男女共同参画の推進というところがあります。大事なところだと思いますけれど、国が言ってもなかなかうまくいかなかった部分です。私も数年前に一回こういう会議に参加したことがありますけれども、低迷しているというか、そういうことがある。</p> <p>ただ、最近の動向としては、男女共同ってということ自体、言葉が古くなってしまって、ジェンダー平等ですよ。男性女性ばかりじゃなくて、マイノリティの人や、あるいはトランスジェンダーの人、ということもこれからは含めて考えていかなければいけないのかなという、そういう視点はまだこれから必要なと思っています。</p>
水内副会長	<p>健康やジェンダーの話が出てきましたけれど、そこの市民の皆さんの関心は確実に高まっていると思います。ですので、そこに対して犬山市がどういう答えを出していくのか。表現の部分を含めて非常に大事だなと思いました。</p> <p>意外と盛り上がってしまったので、あと15分ほどになってしまいましたけれども、この15分で少し、それぞれのご意見を伺った中で、本当にざっくばらんでいいと思いますけれども、こうではないかなど、この辺が気になるということがあれば、お願いします。いかがですか。</p>
増田委員	<p>私は、丹羽委員の意見を聞いて、実際思っていたのですが、なかなか言うことができないところでもありますけれど、確かにこれ多いですよ。見る上でも、見て疲れるぐらいの量があるのは事実だと思うので、通知表としてこれだけあると、なかなか難しいというのは思います。</p> <p>ただ、行政というジャンルで考えるとあまりにも広いジャンルで、世代も違えば、所得も違えば、年齢も違えば、性別も違えばという、数多くの方々がいるので、実際やるのがこれぐらいあるというのは重々承知ではありますけれど、絞るのか、重点項目を決めるのか、まずはこれというふうにするのかということをやったほうがいいのかなとは思っています。</p>
水内副会長	<p>多いなという印象はどうしてもありますよね。</p>
本巢委員	<p>便乗してですけど。</p> <p>お金を積みばせるものって、結構入っているではないですか。そういうものって我々が評価するものではなくて、むしろ、予算をつけているはずなのにできなかったのはなぜかなと思いました。そういうものってこっちが評価のしようがないので。この総合計画というものが、犬山市の施策の根本になるものが入ってくるのはわかりますけれど、それを評価するとなると、お金の問題なので、評価のしようがないものが入っているから、「ん？」と思うところがありました。</p>
水内副会長	<p>そのあたりまでは踏み込めない部分があると。どのぐらいの予算かけていて、実際の効果がどうなのかということは、恐らく把握されていると思いますけれど</p>

	も。
事務局（井出）	<p>おっしゃられたことで、指標の立て方で、お金さえかければできるというのは、指標としていいのかどうかということもあると思います。</p> <p>例えば、道路をきれいにする、アスファルトをもう一遍全部敷き直すというのは、もちろん交通などそういう問題はありますけれども、お金をかければできる。市全体の中で、毎年これだけつけていきたいと思いますであつたり、お金をつけるだけでできるかといったら、人も要るでしょうと。本来だったらそこに人もつけてやらなければいけないというところで、全体の中でバランスが働いているところは正直あると思います。</p> <p>ですので、指標の話に戻りますと、お金さえつければできるでしょというのを指標にして正しいかどうかということころは、確かにおっしゃるとおりで、今後指標を立てる際には留意しないといけないなと思いました。</p>
水内副会長	<p>そうですね、そういう指標の立て方にしない。</p> <p>ほか、いかがでしょうか。</p>
丹羽委員	<p>例えば、見ているもおかしいなど。</p> <p>調査票1の10/12の、例えば義務教育っていっぱい書いてありますよね。ここに、保護者の学校教育に対する満足度などの目標指標、これ、全然意味がわからなくて。それは結果を言っているだけで、では何をするのということを目標にしなければいけない。何をやるということを想定して目標値を決める。保護者の満足度を得るためにこれをやっていきますということを目標値にしないといけないと思う。</p> <p>下もそうだけれど、学校を楽しいと感じる児童・生徒の割合など。割合ずばりを言っている。子どもが楽しいと感じるようにするためには何をしますということを目標にしないと、アンケートを取った結果だけのパーセンテージが目標値になっているから、少し違うなど個人的には思っています。</p>
水内副会長	<p>そこを合わせるの難しいです。次年度以降の取組につながっているのかもしれないですけど。</p>
丹羽委員	<p>学校をこういうふうにお金をかけて、イベントやる、何かやる、ということをしてどれだけやるか、そういうものが目標だと思う。それではなくて、アンケート結果がパーセンテージにあつて、それ以上を目標にしますというふうになっているから、それは本末転倒。</p> <p>先ほども言いましたが、こういうことをやるというのは、5W1Hで物事を考えて判断していかないと。その結果の全てがアンケートによるという話になっているから、指標が。それは苦しいだけですよ。そんなの無理です、誰がやったって。万人が無理、ならないですもん。</p>
水内副会長	<p>KPIで違和感があるのはそこだと思います。違和感があると言っていいかわかりませんが、ありますよねやっぱり。端的な指標で、数字で出してそれで是非を問うというすごく端的なことになってしまうので。本当は、行政が掲げている大きな目標に対して、そんな一指標だけでそれができたかどうかということは、本当は判断できない。それはいろいろ制限などあるので、そういう理由だと思いますけれど。</p>
事務局（井出）	<p>丹羽委員がおっしゃることは、アウトプット。どうしても大きなアウトカムで考えてしまっている、この指標に対して。あまりにも大き過ぎるので、その具体的な道筋や結果が見えないというお話ですかね。</p>

丹羽委員	例えば、学校生活の満足度を上げるためには何をやっていきますかという内容です。それを、「これをやっていきましょう」と決めたら、これはどういうふうに展開しますか、幾つ展開しますか、何をやっていきますかという展開の仕方を普通はするけれども、これは最後の結果だけを言っているのですね、指標で。
事務局（井出）	プロセスというか、そこが全然見えないという。
丹羽委員	見えないというか、本来はそこを目標にして、満足度を上げるためにこういうことをやっていきましょうと。上がったかどうかは別問題として、今までにない市政の取組としてこういうことですよと。それはアンケートを取った結果こうだったかもしれませんが。たまたま不運で、満足が皆さん上がっていないかもしれないけれど、市としてはそういうことを取り組んだという実績をちゃんと残すべきだし、それを受けて次年度、それが満足していないという結果が得られれば、こうしましょうかっていうことを。子どもの意見を聞いて、耳を傾けて、次こうやって策を打ちましょうというのにつなげるのが普通だと思います。
水内副会長	上位目標にきちんとひもづいた下位目標に対して評価をしていかないといけないうのに、上位目標をそのまま評価しようとしている。数字で評価しようとするのがおかしいのではないかって。
丹羽委員	そうですね。イメージとしてはそういうイメージです、私が言っているイメージは。
水内副会長	それはわかる気がします。アンバランスになってしまいますよね。そういうのはいかがですか。
事務局（井出）	わかります。
丹羽委員	だから、井出さんは厳しいと言っていると思いますよ。それはKPIの設定がおかしいよという話だと思うけれど。誰にでもわかるということが一番そうかもしれないけれど、少し違うなど。
事務局（井出）	満足度というものは数字が出るだけなので、設定指標としては我々の中である意味安易なところがあります。でも、丹羽委員おっしゃるように、それでは次につながらないだろうと、大きな目標だけ、上がった、下がっただけ考えていても次につながらないので、やっぱりぶら下がってしっかりやったことがどう評価して、次にどうつながるかということをしっかり設定していくべきだと捉えましたけれど、そういうことですか。
丹羽委員	例えば、私の会社でやっていることを1つ例に挙げると、社員の満足度を上げようということをやっています。何をやらせているかといったら、社員にどうということが不満ですかというアンケートを取る。そういう中で多かったところをピックアップして、そこをウィークだと思って、攻めにいく。 今やっていることは、社員から社食が美味しくないという言葉があつて。今ケータリングをやっているけれど、そこの社長と話をして、「こういうことできませんか」、「ああいうことできませんか」と提案しました。例えば、値段も交渉して、月に1回、牛丼チェーンや有名なシェフの料理を出すということをやったりして社員の満足度を上げる。それは一つの手段ですけどね。それをメニューに織り込んでやっていこうということ。それができたかできないか。結果、アンケートを取ると、おいしくなったね、料理のボリュームがよくなったねと。 うちがいけなかったことは、温かいものを出していなかった。作って持ってきてもらうけれど、それをまた会社の中で温めて、社員に温かいものを出す。温かいということも一つの味ですよ。冬に冷たいご飯を食べるということはナンセ

	<p>ンス。温かいものを常に供給してもらって、社内でもまた温めてでき立てのように出すということが非常に社員に受けて、今は結構よくなったなと思います。アンケートを取ると、みんな、よくなったねと言ってくれるので、それは達成したという感じになる。結果としては社食の満足度は上がっている。</p> <p>それは結果ですよね、私が言っているのは、やるべき内容は、そういうことをやっているよということ。満足度を上げると言っているだけなので、それは少し違うのではないかと私は言っている。</p>
水内副会長	<p>当たり前のことかもしれないですけど、問題の特定をいかにするかということですよ。課題をいかに特定するか。</p> <p>難しさもありますけれど、でも、非常に重要な。</p>
事務局（井出）	6次総につながる、非常にいいご意見をいただいたと思いました。
水内副会長	<p>ありがとうございます。いい議論がある意味出てきたかなと。</p> <p>ちょうど時間ですかね。</p>

鈴木会長	<p>お疲れさまでした。どうもありがとうございました。</p> <p>今日2つのグループで話し合ったというか、活発な意見交換をした内容は、議事録を後日作りまして、またご確認いただくような形。そのときはよろしく願います。</p> <p>続きまして、第6次の総合計画策定の進捗状況、本日の議事の2つ目のところになりますが、こちらの内容のご報告を事務局から皆様方にしていただきます。よろしく願います。</p>
事務局（倉知）	<p>事務局から説明させていただきます。</p> <p>前回の審議会で、序論や基本構想について委員の皆様からいただいたご意見を踏まえて、現在、修正作業を進めている最中です。次回の審議会で修正案をお示ししまして、ご意見をいただく予定です。</p> <p>また、現在、第6次総合計画の基本計画の素案を作成中です。こちらにつきましても、事務局が作成した基本計画（素案）をお示しし、それについて皆様からご意見をいただきながら内容を固めていきたいと考えております。</p> <p>もう1つ、情報提供になるのですけれども、ただいま、この総合計画策定に向けた取組の状況を市民の皆様へ情報提供しようということで、かわら版を作成しております。近く広報と一緒に回覧させていただく予定ですが、その前に皆様へ情報提供として差し上げます。ぜひご覧ください。</p> <p>説明としては以上になります。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今の6次の通常の業務の作業経過と併せて、かわら版ということでご紹介がありました。これ、きれいですね。きれいですし、わかりやすい内容です。またこれはじっくり皆さんお読みください。</p> <p>今の内容についてどうでしょうか。何か、ご質問などありますでしょうか。よろしいでしょうか。</p>
各委員	(質問等なし)
鈴木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、本日の議事2点は整いましたので、これ以降については事務局にお</p>

	返したいと思います。 よろしく申し上げます。
--	---------------------------

(4) その他

事務局（井出）	鈴木会長、ありがとうございました。 次回の審議会の日程について、その他として連絡させていただきます。
事務局（倉知）	前回の会議でお伝えしましたとおり、次回の審議会は6月28日火曜日午後7時より開催いたしますので、よろしくお願いいたします。 現在のところ、本日同様対面での開催を想定しておりますが、コロナウイルス感染の状況によってはオンライン会議とする可能性もありますので、その点ご承知おきください。 改めて開催通知を送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。
事務局（井出）	その他は以上となります。

(5) 閉会

事務局（井出）	それでは、本日の会議はこれで閉会とさせていただきます。 委員の皆様、ありがとうございました。
---------	---